

完了後の評価個表

整理番号	4-1
------	-----

事業名	民有林補助治山事業 (自然環境保全治山)	都道府県名	栃木県
事業実施地区名	裏太郎 (うらたろう)	事業計画期間	平成12年度～平成18年度(7年間)
関係市町村名	日光市 (旧栗山村)	事業実施主体	栃木県
完了後経過年数	5年	管理主体	栃木県
事業の概要・目的	<p>日光連山の一つである太郎山から山王帽子山にかけての北面は、鬼怒川の重要な水源地域を形成しており、同時に優れた自然景観を有していることから日光国立公園の特別地域の指定を受けている。</p> <p>しかしながら、この一体を形成する火山堆積物の地質は脆弱であり、年間降水量が2,000～3,000mmの多雨地域であることから、多数の崩壊が存在する県内有数の荒廃溪流となっている。</p> <p>このため平成12年度に森林の持つ国土保全機能、自然環境保全機能等の高度発揮を図るため、自然環境保全治山事業により、地域の景観・生態系等に配慮した治山施設及び森林の整備を実施したものである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主な事業内容：谷止工10基、流路工64m、山腹工2.8ha、森林整備4.0ha等 ・総事業費：1,143,510千円 		
① 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>当事業の実施により、山腹崩壊、土砂流出による下流の人家、県道・市道への被害を未然に防止する効果を山地災害防止便益として計上しており、その算定基礎としている人家・県道等の数量に特段の変化は見られない。</p> <p style="text-align: center;"> 総便益(B) 2,225,114 千円 総費用(C) 1,667,819 千円 分析結果(B/C) 1.33 </p>		
② 事業効果の発現状況	<p>当事業の実施により、地域の景観・生態系等に配慮しつつ、山腹崩壊の拡大防止、土砂流出など流域の保全が図られている。</p>		
③ 事業により整備された施設の管理状況	<p>当事業により整備した治山施設については、栃木県が適切に管理している。現在の状況は、完了後5年が経過して順調に緑化が進行しており、これまでのところ土石流や新たな崩壊により被災して機能を失った施設はない。</p>		
④ 事業実施による環境の変化	<p>多様な樹種による植栽等森林整備を実施した結果、豊かな動植物の生息・生育環境が創出された。</p> <p>また、木材により修景を施したコンクリート構造物は、現在、周囲の景観になじみ、林道奥鬼怒線(山王林道)からの景観も改善された。</p>		

⑤ 社会経済情勢の変化	当事業の保全対象としている集落の人口、県道等の重要性に特段の変化は見られない。 主な保全対象：人家51戸、県道600m、市道100m
⑥ 今後の課題等	山腹崩壊の防止効果を長期にわたって発揮させる必要があるが、改善措置等の必要性は見られない。 今後は、定期的な点検と適切な維持管理を努めていく必要がある。
評価結果	<ul style="list-style-type: none">・ 必要性： 自然環境が豊かな重要な水源地域であるのに対して、地質が脆弱で多数の崩壊が存在する流域の荒廃状況にあったことから、森林の持つ国土保全機能や自然環境保全機能等の高度発揮を図りつつ、山地災害を防止するため事業の必要性が認められる。・ 効率性： 荒廃地の対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で実施しており、事業実施にあたってはコスト削減に努め総事業費の削減が図られたことから、事業の効率性が認められる。・ 有効性： 当事業の実施により、地域の景観・生態系等に配慮しつつ、山腹崩壊の拡大防止、土砂流出の防止など流域の保全が図られており、事業の有効性が認められる。

整理番号

4

便 益 集 計 表
(治山事業)事業名：自然環境保全治山
施行箇所：裏太郎都道府県名：栃木県
(単位：千円)

大 区 分	中 区 分	評 価 額	備 考
水源涵養便益	洪水防止便益	55,774	
	流域貯水便益	10,729	
	水質浄化便益	22,729	
災害防止便益	山地災害防止便益	2,135,882	
総 便 益 (B)		2,225,114	
総 費 用 (C)		1,667,819	千円
費用便益比		$B \div C = \frac{2,225,114}{1,667,819} = 1.33$	

評価箇所概要図

整理番号	4
------	---

栃木県

事業名	民有林補助治山事業 (自然環境保全治山)	地区名	裏太郎
-----	-------------------------	-----	-----

